

グレート・デーン

Great Dane

FCI スタンダード No. : 235

■原産国

ドイツ

■用途

コンパニオン、番犬、警備犬

■FCI分類

グループ2 ピンシャー&シュナウザー、モロシアン犬種、スイス・マウンテン・ドッグ&スイス・キャトル・ドッグ、関連犬種

セクション2.1 モロシアン犬種、マスティフ・タイプ

■沿革

今日のグレート・デーンの祖先犬については、古い「ブレンバイザー（ブルドッグの一種）」と、頑健なイングリッシュ・マスティフ・タイプと機敏なグレーハウンドの中間タイプである「Hatz-and Sauriden（狩猟犬及び猪猟犬）」を考慮しなければならない。「Dogg」という単語は当初、特定の犬種を指すのではなく、大きくて、力強い犬という意味であると理解されていた。後に、Ulmer Dogge、English Dogge、グレート・デーン、Hatzrüde（ハンティング・ドッグ）、Saupacker（ボアフアインダー）及び Grosse Dogge（Great Dogge）は、毛色とサイズによって分類された。

1878年にベルリンで Bodinus 博士を委員長とする活動的なブリーダー及び審査員7名で構成された委員会が結成され、前述の全てのバラエティーを「Deutsche Dogge（グレート・デーン）」として分類することを決議した。それにより、独立したドイツ犬種としての繁殖の基礎が築かれた。

1880年にベルリンでのショーが開催された機会に、グレート・デーンの最初のスタンダードが定められた。

このスタンダードは1888年以降、「Deutsche Doggen Club 1888 e.V.（1888年に登録された German Doggen Club）」により管理され、長年に亘りしばしば修正されてきた。現行のスタンダードはFCIの必須要件を満たしている。

■一般外貌

高貴な外貌をしているグレート・デーンは、大きく、力強く、しっかりした体躯構成をしており、誇りと力強さ、そして優雅さを兼ね備えている。気高さ、調和のとれた外貌、よく釣り合いのとれたアウトライン、特に表情豊かな頭部により、観衆に気高い印象を与え、決して粗野であったり、洗練された優雅さの印象を与えない。完璧なバランスを保ち、常に性相が明確である。グレート・デーンは全ての犬種の中のアポロと言えらるだろう。

■重要な比率

ほぼスクエアな体躯構成で、この特徴は特に牡に見られる。牝のボディはもう少し長い。

■習性／性格

友好的で、愛情深く、飼い主に対し献身的である。他人に対しては控えめな場合もあるが、自信に満ち、怖いもの知らずで、容易に訓練でき、柔順なコンパニオンであり、家庭犬であることが求められる。また、挑発に対し大変忍耐強く、攻撃的ではない。社会的に受け入れられる習性が最も重要である。

■頭 部 (ヘッド)

一般外貌と調和が取れている。長く、幅は狭く、明瞭であり、表情豊かである。決して楔形ではない。特に目の下は、彫りが深い。鼻先からストップまでとストップから僅かに分かる程度のおクシパットまでの長さはできるだけ等しくなくてはならず、比率は1：1である。マズルとスカルの上のラインは平行でなければならない。前望すると頭部の幅は狭く、角張っていなければならない、鼻梁はできるだけ幅広である。

□頭蓋部 (クラニアル・リージョン)

スカルのトップは平らで、角張っていなければならない。

スカル

眉弓はよく発達しているが、突出はしていない。

ストップ

明瞭である。

□顔 部 (フェイシャル・リージョン)

鼻 (ノーズ)

よく発達しており、鼻孔は大きく、丸いというよりは幅広である。ハールクイン (ホワイトにブラックの斑のあるもの) 以外の鼻はブラックである。ハールクインの場合はブラックの鼻が望ましいが、バタフライ・ノーズ (ブラックにピンクの斑のあるもの) または肉色の鼻は許容される。毛色がブルーの犬の場合はやや薄いブラックである。

マズル

深く、できるだけ長方形である。鼻梁は決して凹んでいたり (皿型)、凸状であったりしてはならず (ローマン・ノーズ)、マズルの先端部分が下降してはならない (イーグル・ノーズ)。

唇 (リップス)

唇の境界線の前側は角張っており、唇の端は明瞭である。唇は垂れているが、過度に垂れてはおらず、巻き込んでもない。唇は色素沈着している。ハールクインの犬 (ホワイトにブラックの斑のあるもの) では、完全に色素沈着していない唇や肉色の唇も許容される。

顎/歯 (ジョーズ/ティース)

よく発達した幅広の顎である。丈夫で健全で完全なシザーズ・バイトである (正常な歯列に沿った 42 本の歯)。上顎または下顎の PM1 の欠歯は 2 本まで許容される。

頬 (チークス)

頬の筋肉は僅かに分かる程度で、全く突出していない。

■目 (アイズ)

中位の大きさで、活発で親しみやすい利発な表情をしている。アーモンド型で瞼は密着している。目は離れすぎずに付いており、細長くはない。できるだけ暗色で、明るく鋭い目や琥珀色の目の色は望ましくない。しかしながら、ブルーの犬では僅かに明るい目の色も許容される。ハールクイン (ホワイトにブラックの斑のあるもの) の及びグレーにブラックの斑のあるもの) の場合、青白い (アイス・ブルー) の色の目や両目の色が異なるものも許容される。

■耳 (イヤーズ)

耳付きは高く、自然に垂れ下がり、スカルを越えたり、低い位置に垂れ下がったりはしない。中位の大きさ。前側の縁は頬に沿って垂れているが、平らに垂れて

いることも、頭部の横側から離れていることもない。

■頸（ネック）

長く、すっきりしており、筋肉質で、決して短くも太くもない。しっかり付いており、頭部に向かって僅かに先細り、頸筋はアーチしている。高く掲げられており、僅かに前方に傾斜している。

■ボディ

キ 甲（ウィザーズ）

頑丈なボディの最も高い部分。脊髓突起を越えた肩甲骨の頂点によって構成されている。

背（バック）

短く、堅固で、筋肉質である。ほぼ真っ直ぐで、後方に向かって僅かに傾斜している。

腰（ロイン）

僅かにアーチしており、幅広で、頑丈な筋肉である。

尻（クループ）

幅広で、よく筋肉が付いている。寛骨から尾付きにかけて僅かに傾斜し、自然に尾の付け根と合流する。

胸（チェスト）

肘まで達している。よく張った肋骨はかなり後ろまで達している。肋は決して樽型でも扁平でもない。胸は十分な幅と深さがあり、決して扁平であったり、浅く見えてはならない。前胸は明瞭だが、胸骨が過度に突出してはならない。

アンダーライン及び腹部（ベリー）

腹は後方に向かって十分に巻き上がり、前胸の底はゆるやかなカーブを織りなす。

■尾（テイル）

飛節まで達し、決して長すぎても短すぎてもならない。尾付きは高く、幅広で、尾付きは高すぎても低すぎてもいない。太すぎもせず、尾先に向かって徐々に先細っている。休息時の尾は垂れ下がり、自然なカーブを成している。緊張していたり、歩様時の尾は若干サーベル状に掲げられるが、背線を著しく超えたり、横にねじれたりしない。

■四肢（リムズ）

□前肢（フォアクォーターズ）

一般外貌（ジェネラル・アピアランス）

十分な角度がなければならず、強い骨と筋肉を伴う。前望すると、真っ直ぐ平行に立っている。

肩（ショルダー）

しっかり筋肉が付いている。長く、傾斜した肩甲骨は上腕に対し 100 度から 110 度の角度で付いている。

上腕（アッパー・アーム）

頑丈で、筋肉質で、ボディに密接しており、肩甲骨よりも僅かに長い。

肘（エルボー）

内向も外向もしていない。

前腕（フォアアーム）

頑丈で、筋肉質である。前望及び側望すると、完全に真っ直ぐで垂直である。

手根（カーパス）（リスト）

頑丈で、安定しており、前腕の構成から僅かに見分けが付く程度である。

中 手 (メタカーパス) (パスターン)

頑丈で、前望すると真っ直ぐで、側望すると前方にほんの僅かに傾斜している。

前 足 (フォアフィート)

丸みを帯び、よくアーチしており、緊握している (猫足)。爪は短く、丈夫で、ダークなものほど好ましい。

□後 肢 (ハインドクォーターズ)

一般外貌 (ジェネラル・アピアランス)

骨格全体が頑丈な筋肉で覆われているため、腰、尻及び大腿は幅広で丸みを帯びているように見える。頑丈で角度が十分ある後肢は、後望すると前肢に対して平行である。

大 腿 (サイ)

長く、幅広で、大変筋肉質である。

膝 (スタイフル) (ニー)

頑丈で、股関節のほぼ真下に付いている。

下 腿 (ローワー・サイ)

長く、大腿とほぼ同じ長さである。十分筋肉が付いている。

飛 節 (ホック・ジョイント)

頑丈で、しっかりとしており、内向も外向もしていない。

中 足 (メタターサス) (リア・パスターン)

短く、頑丈で、地面に対しほぼ垂直である。

後 足 (ハインド・フィート)

丸みを帯び、よくアーチし、緊握している (猫足)。爪は短く、丈夫で、ダークなものほど好ましい。

■歩 様 (ゲイト／ムーブメント)

調和が取れ、しなやかで、グラウンド・カバリングに富んでおり、僅かに弾力性がある。歩幅は決して狭かったり、ペーシングしたりしない。歩様時の脚は前望しても後望しても平行でなければならず、前肢と後肢の間は常に調和している。

■皮 膚 (スキン)

ボディに密着している。単色の犬ではよく色素沈着している。ハールクインの犬では色素沈着の配分は主にマーキングと一致している。

■被 毛 (コート)

□毛 (ヘアー)

大変短く、密生しており、滑らかで、密着しており、光沢がある。決して粗野で、光沢のない、ダブル・コートではない。

□毛 色 (カラー)

グレート・デーンは3つの異なったカラー・バラエティーで繁殖される

バラエティー1：フォーン、ブリンドル

バラエティー2：ハールクイン (ホワイトにブラックの斑)、マール (グレーにブラックの斑)、ブラック

バラエティー3：ブルー

フォーン

淡いゴールド・フォーンから濃いゴールド・フォーンまであり、ボディ全体に均一なシェードがある。ブラック・マスクが望ましい。胸の小さなホワイトのマーキングは許容される。

ブリンドル

基本色は淡いゴールド・フォーンから濃いゴールド・フォーンまであり、できる限り均等で明瞭なブラックの縞が肋骨に沿って入っている。ブラック・マスクが望ましい。決して色あせた縞ではない。胸の小さなホワイトのマーキングは許容される。

ハールクイン (ホワイトにブラックの斑があるもの)

基本色は純白で、ティッキング (極小斑) がないものが好ましい。ちぎった様な見た目の漆黒の斑が体全体に満遍なく散らばっている。グレーまたはブラウンの斑、またはブラックにそれらの色合いがあるものは望ましくなく、ホワイトにブルー・グレーのティッキングがあるものも望ましくない。

マール (グレー・ブラックのしぶきのような斑)

基本色はグレーで、ティッキングがないものが好ましい。不規則でちぎった様な見た目の漆黒の小斑が体全体に満遍なく散らばっている。胸及び足のホワイト・マーキングは許容される。ここにはグレー・ブラックの小斑がマントのようにボディを覆っており、マズル、頸、胸、腹、脚、尾先はホワイトの「マントル・グレート・デーン」も含まれる。

ブラック

漆黒。胸と足のホワイト・マーキングは許容される。ここにはブラックがコート (マントル) やブランケットのようにボディを覆い、マズル、喉、胸、腹、脚、尾先はホワイトの「マントル・グレート・デーン」も含まれる。ホワイト地に大きなブラックの斑があるものは「Plattenhunde」と呼ばれる。

ブルー

明瞭なスチール・ブルー。胸と足のホワイト・マーキングは許容される。

■ サイズ

体高

牡：80cm 以上、90cm 以下

牝：72cm 以上、84cm 以下

■ 欠点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度及び犬の健康並びに福利への影響に比例するものとする。

- ・ 頭部：ストップが不十分のもの。
- ・ マズル：時々唇を巻き込む傾向があるもの (下顎の切歯が下唇で覆われている状態)。
- ・ 顎／歯：咬合は正しいが、個々の切歯の位置が不規則なもの、歯が小さすぎるもの。部分的にピンサー・バイトのもの。
- ・ 目：出目のもの、または深すぎるもの。
- ・ 耳：耳付きが高すぎたり、低すぎたり、横に離れたり、平らに寝ているもの。
- ・ 頸：シープ・ネック (ユー・ネック)。
- ・ 肩：肩が緩かったり、重いもの、または肩甲骨が真っ直ぐなもの。
- ・ 背：後部に向かって高くなるもの、長すぎるもの。
- ・ 胸：樽型、または平らな肋。
- ・ アンダーライン及び腹部：巻き上がりが不十分な腹部のライン、乳腺の退縮が不十分なもの。
- ・ 肘：緩いもの。
- ・ 前腕：曲がっているもの。中手の関節の上部が膨張しているもの。
- ・ 中手：膨張しているもの。著しく屈曲している、または過度に曲がっているもの。

の。中手があきらかに弱いもの、傾斜しすぎているもの、真っ直ぐすぎるもの。

- ・ 後肢：角度がありすぎるもの、または無さすぎるもの。カウ・ホック、中足が密接しすぎているもの、またはバレル・ホック。
- ・ 尾：尾付きが高すぎたり、低すぎるもの、フック型や、カールした状態で保持しているもの、ブラシのような尾。
- ・ 足：平らな足、開いた足、長すぎる足。デュークローがあるもの。
- ・ 毛色：
フォーン：グレー、ブルー、またはすすのようなフォーン。
ブリンドル：不明瞭なブリンドルのある、グレー、ブルー、またはすすのようなフォーン。
ブラック：イエロー、ブラウン、またはブルー・ブラックの色合い。
ブルー：フォーンまたはブラックのようなブルーの色合い。

■重大欠点

- ・ 気質：自信に欠けているもの、シャイ、ナーバスなもの。
- ・ 皮膚：マズル及び頬の部分に深い皺のあるもの、喉の皮膚またはデューラップが著しく顕著なもの。
- ・ 頭部：アップル・ヘッド及び頬の筋肉が目立ちすぎるもの、スカルのトップが丸すぎるもの。
- ・ 目：瞼が緩いもの、赤い瞬膜が見えるもの。
- ・ 背：スウェイ・バックまたはローチ・バック。
- ・ 尻：尻が傾斜しすぎているもの、または水平な尻。
- ・ 尾：損傷しているもの、尾先が太くなっているもの、または断尾されているもの。
- ・ 歩様：短い歩幅、絶えずペーシングしているもの。

■失格

- ・ 攻撃的または過度のシャイ。
- ・ 肉体的または行動的に明らかに異常なもの。
- ・ 気質：恐怖のあまり噛みついてしまうもの。容易に挑発にのるもの。
- ・ 盲目、または難聴。
- ・ 鼻：レバー色。スプリット・ノーズ。
- ・ 目：眼瞼外反、眼瞼内反、または大眼瞼。毛色が一色のもので、両目の色が異なるもの。
- ・ マズル：常に唇が巻き込んでいるもの（下顎の切歯が下唇で覆われている状態）、口腔粘膜の損傷、腫れ、または炎症の兆候を伴う巻き唇。
- ・ 顎／歯：オーバーショット、アンダーショット、ライ・マウス、ピンサー・バイト。上顎及び下顎のPM1の欠歯2本までを除く欠歯。
- ・ 尾：キンク・テイル。
- ・ 毛色：
フォーン及びブリンドル：ホワイトのブレース、ネック・カラー、足または「ストッキング」、尾先を伴うシルバー・ブルーまたはイザベラ。
ハールクイン：ポーセリン・デーン（ホワイトの地色に主にブルー、フォーン、ブリンドル、またはグレーの小斑が見られる）として知られる一切ブラックのないホワイト（アルビノ）。
ブルー：額の縞、ネック・カラー、ストッキング、または尾先がホワイトのもの。

- ・ サイズ：最低体高を下回るもの。
- 注：
- ・ 牡犬は明らかに正常な2つの睾丸が陰嚢内に完全に下降していること。
 - ・ 機能的かつ臨床的に健全であり、犬種のタイプを有しているもののみが繁殖に使用されるべきである。